# 四季報草原灌溉

草原における環境保全型節水灌漑モデル事業 ニュースレター

Vol. 5

2009年9月発行

# ニュースレター Vol.5 発行

「草原における環境保全型節水灌漑モデル事業」は、草原における環境保全型節水灌漑手法を確立するため、整備計画策定マニュアルの作成、内モンゴル自治区及び新疆ウイグル自治区に設置したモデル地区での効果の検証、研修コンテンツの作成と研修実施を目的として、07年6月から実施しております。

本ニュースレターは、このプロジェクトで行った活動について、広く関係者の皆様にお知らせすることを目的 として、概ね4半期に一回発行しております。今回の Vol. 5 では、08 年 12 月から 09 年 8 月までの主な活動内容 や出来事を紹介いたします。

- 1. プロジェクトパンフレットの作成(08年12月)
- 2. マニュアル編成委員会作業部会、編成委員会の開催(08年12月~09年3月)
- 3. JICA国内支援委員会の開催(09年1月14日)
- 4.「新疆天然草地生態保護及び牧畜民定住プロジェクト」主催セミナーにて発表(09年2月17日)
- 5. 新疆ウイグル自治区ウルムチ市において現地研究会開催(09年3月17日)
- 6. 内モンゴル自治区杭錦旗において新たな実証試験の説明(4月7日~9日)
- 7. 合同中間評価及び合同調整委員会の実施(09年4月13日~29日)
- 8. 新日本側専門家着任(09年5月22日)
- 9. 内モンゴル自治区現地調査 3回 (09年6月~8月)
- 10. 新疆ウイグル自治区現地調査(09年6月29日~7月3日)
- 11. 鳥取大学安養寺教授(短期専門家)による現地指導及び講義(09年8月9日~18日)
- 12. 本邦研修の実施(09年8月16日~9月11日)

# 〇活動内容 · 出来事

# 1. プロジェクトパンフレットの作成(08年12月)



12月にプロジェクトの紹介を目的としたパンフレットを作成しました。

中国における牧区の分布状況、地形・気象等の特徴や 社会経済状況などを紹介するとともに、本プロジェクト の概要や実施状況などをできるだけ分かりやすく取りま とめたものです。

今後の各種研修会等で広く配布していく予定です。

### 2. マニュアル編成委員会作業部会、編成委員会の開催(08年12月~09年3月)

本プロジェクトの大きな柱の一つである「整備計画」策定マニュアルを編成するため、灌漑排水発展センターにおいて、第2回マニュアル編成委員会作業部会が12月9日に、第2回マニュアル編成委員会が3月25日開催されました。



# (1) 作業部会

作業部会では、これまで作成した大綱に基づき、各執筆者より 初稿(素案)が示されました。

この初稿(素案)について、日本人専門家から図表やフロー図等を採り入れることが提案されるなど、熱心な議論が行われました。

また、マニュアル編成委員会に向けて作業を行うことが確認されました。



#### (2)編成委員会

編成委員会では、上記作業部会の検討結果等を踏まえて作成した第2稿(試行案)について、水利部、灌漑排水発展センターカウンターパートと日本側専門家が参加し、議論が行われました。

今後、委員会での議論をもとに修正を行い、関係者の意見を募り、試行版の完成を目指すこととしています。

#### 3. JICA国内支援委員会の開催(09年1月14日)

1月14日にJICA本部及び北京中国事務所において、第4回国内支援委員会が開催されました。

今回は、本プロジェクトの他に「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」、「山西省雁門関地区生態環境回復及び貧困緩和プロジェクト」の3プロジェクト合同開催となりました。各プロジェクトから進捗状況について説明があり、それに対し支援委員より意見や指導を頂きました。





2月17日から18日、新疆ウイグル自治区ウルムチ市において、「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」主催のセミナーが開催されました。

本プロジェクトと「新疆天然草地生態保護と牧畜民定住プロジェクト」、「山西省雁門関地区生態環境回復及び貧困緩和プロジェクト」の3プロジェクトは、情報交換や専門家相互派遣等により連携していくこととしています。

このため、このセミナーでは、本プロジェクトからプロジェクト内容及び第1年次の実証試験成果を発表しました。また、本プ

ロジェクトのカウンターパートである新疆ウルムチ自治区水利庁及び木塁県水利局の職員も参加しました。 当日参加した約70名の方々は、各種報告に熱心に耳を傾けていました。

### 5. 新疆ウイグル自治区ウルムチ市において現地研究会開催(09年3月17日)



3月17日に新疆ウイグル自治区ウルムチ市において、プロジェクトの活動内容の一つである「整備計画」策定マニュアルについての現地研究会を開催しました。

研究会には、灌漑排水発展センター、新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区のカウンターパート、「新疆天然草地生態保護と牧畜 民定住プロジェクト」、近郊県の技術者約30名が参加しました。

日本人専門家からこれまでのプロジェクトの流れを説明すると 共に、両自治区カウンターパートから 08 年度の実証試験の結 果発表が行われました。

また、「整備計画」策定マニュアル第2稿(試行案)を紹介し、内容についての意見交換を行いました。これらの意見をもとに修正を行い、マニュアル編成委員会で検討していくことになりました。

#### 6. 内モンゴル自治区杭錦旗において新たな実証試験を説明(09年4月7日~9日)



09年度の灌漑が5月より開始されるため、4月7日より現地モデルサイトにおいて、今年度の実証試験の説明を行いました。

まず、杭錦旗水務局において、今年度の実証試験内容について、新たな実証試験の様式を配布し、打ち合わせを行いました。

次に、各牧民の圃場において、昨年度の実証試験では牧民間での 使用水量に相当のばらつきが見られたことから、戸別のデータを正 確に読み取ることの重要性など、実証試験の説明を詳細に行いまし た。また、節水の可能性を検証するため設置した水量メーター及び 電気メーターの現時点の数値を読み取り、各牧民にその意義につい

て説明を行いました。

さらに、09 年度から新たに実証試験を開始する 300 亩の圃場において、実証試験圃場の設置と試験パターンについて説明を行いましたが、牧民には非常に真剣な表情で説明を聞いて頂きました。

## 7. 合同中間評価及び合同調整委員会の開催(09年4月13日~29日)



本プロジェクトは、09年5月末でプロジェクト期間の半分の2 カ年経過することから、日本より中間レビュー調査団が来中し、 中国側と合同で中間評価が行われました。

合同中間評価では、新疆ウイグル自治区及び内モンゴル自治区において、現地カウンターパートや牧民へのインタビュー及び現地実証試験圃場の調査が行われました。また、北京の灌漑排水発展センターで、水利部の政策と本プロジェクトの整合性や「整備計画」策定マニュアルの策定状況などの聞き取りが行われました。これらの調査結果は、合同中間評価報告書として取りまとめられ、4

月28日の日中合同調整委員会に報告されました。

日中合同調整委員会では、合同中間評価報告書が承認されるとともに、PDM 指標の具体的な数値化や情報の共 有化や精度の高い実証試験を実施するための提言がなされ、ミニッツが締結されました。

#### 8. 新日本側専門家着任(09年5月22日)

日本側専門家の東専門家と叶調整員が5月末に帰国し、また、長谷部チーフアドバイザーはプロジェクト引き継ぎのため、6月末までの任務を遂行し帰国されました。後任として菊池チーフアドバイザー、吉田専門家、土 岐調整員の3名が5月22日に着任いたしました。







吉田専門家



土岐調整員

# 9. 内モンゴル自治区現地調査 3回(09年6月~8月)



6月~8月にかけ、内モンゴル自治区杭錦旗のモデル地区において、新日本側専門家と灌漑排水発展センターカウンターパートが3回の現地調査を行いました。

第1回目の6月15~18日には、新日本側専門家が年度途中の赴任であることから、杭錦旗水務局を表敬するとともに、実証試験実施状況とモデル牧戸の状況を確認しました。また、現地カウンターパートと、データ管理方法を含めたプロジェクト実施に係る意見交換を行いました。



また、7月27~29日、8月10~13日は、モデル牧戸における灌漑、 営農状況及び飼料作物生育状況のモニタリングと節水灌漑指導を行い、データ等の諸確認を行いました。なお、3回目の8月10~13日は、短期専門家の鳥取大学安養寺教授より現地指導をいただきました(後記)。

今後も10月の収穫まで概ね1回/月の現地調査を行う予定としています。

(写真上:6月の灌漑状況のモニタリング、写真下:7月の実証区灌漑状況(3004-圃場)について牧民へ聞き取り)

#### 10. 新疆ウイグル自治区現地調査(09年6月29日~7月3日)

6月29日から7月3日の日程で、新疆ウイグル自治区において、新日本側専門家と灌漑排水発展センターカウンターパートが現地調査を行いました。

上記の内モンゴル自治区現地調査と同様、新日本側専門家が年度途中の赴任であることから、新疆ウイグル自治区水利庁及びモデル地区のある木塁県水利局を表敬するとともに、実証試験区及び関係する村、木塁県下の状況を確認しました。また、新疆ウイグル自治区水利庁及び木塁県水利局のカウンターパートと、プロジェクト実施に係る意見交換を行いました。

さらに、「新疆天然草地保護と牧畜民定住プロジェクト」の日本側専門家と、今後の連携方法等について意見 交換を行いました。





(写真右:試験圃場での灌漑状況、写真右:牧民生活様式のモニタリング状況)

#### 11. 鳥取大学 安養寺教授(短期専門家)による現地指導及び講義(09年8月9日~18日)

日本の畑地灌漑第一人者であり、世界でご活躍されている鳥取大学の安養寺教授が、短期専門家として8月9日から18日までの日程で来中され、内モンゴル自治区モデル地区での現地指導及び現地技術者への講義、中国灌漑排水発展中心技術者への講義を行っていただきました。

(1) 内モンゴルモデル地区における現地指導(8月10日~13日) モデル牧戸(300亩試験圃場、9牧戸)における灌漑、営 農状況及び飼料作物生育状況等を調査し、今後の実証試験 における改善点や効果検証に必要な視点について現地指 導して頂きました。



#### (2) 内モンゴル杭錦旗水務局技術者への講義

8月13日、内モンゴル杭錦旗水務局会議室において、杭錦旗水務局技術者15名に対し、灌漑における圃場段階での節水方法及び世界の畑地灌漑における塩害状況について、安養寺教授より講義を行って頂きました。

講義ではパワーポイント及び配布した安養寺教授の報文が用いられましたが、特に圃場段階での節水方法や世界の節水灌漑の状況について、パワーポイントの図や写真での説明を中心に、わかりやすく講義して頂きました。



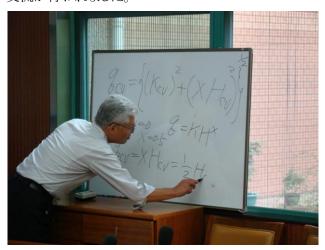


#### (3) 中国灌漑排水発展センター技術者への講義

8月17日、中国灌漑排水発展センター会議室においてセミナーを開催し、中国灌漑排水発展センターの28名の技術者に対し、灌漑における圃場段階での節水方法について講義いただきました。

講義では、パワーポイント及び配布した安養寺教授の報文を用いて、圃場段階での節水方法に関する安養寺教授の研究成果を中心に、節水灌漑に関する理論など高度な学術的知見の講義を行っていただきました。

また、講義後の意見交換では、特に安養寺教授が研究されてきた均等係数と散布効率の関係式などについて多くの質問があり、安養寺教授がホワイトボードを用いて解説するなど、予定した時間を大幅に超過して有意義な技術交流が行われました。





#### 12. 本邦研修の実施(09年8月16日~9月11日)

本プロジェクト開始以来、3回目となる本邦研修の参加者6名が、8月16日に日本に向けて出発し、9月11日に帰国しました。

日本での研修内容は、プロジェクトマネジメント手法や日本の農業農村整備事業などに関する講義、北は北海道から南は鹿児島までの農業農村整備事業実施地区の現地視察など、充実したカリキュラムとなっており、今後のプロジェクト成果への反映が期待されています。今後、灌漑排水発展センター、内モンゴル杭錦旗水務局、新疆ウイグル自治区木塁県水利局の3か所で帰国報告会を行う予定としています。

#### 編集後記:

Vol.4 (08 年 11 月) まで発行していましたが、プロジェクトの中間評価や日本人専門家の交代等があり、しばらくの間、お休みをいただいておりました。今回 (Vol.5) よりできるだけ定期的に発行したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、新たな日本人専門家 3 名が 5 月 22 日に北京に着任して約 4 か月が経ちました。この間に、多くの関係者とプロジェクト実施に係る意見交換や、内モンゴル自治区と新疆ウイグル自治区の現地調査などを行いました。現地調査では、これまでのプロジェクト活動の成果が根付き始めていることを実感しました。

2011 年 5 月のプロジェクト終了まで、これまでの活動成果をより多くの実につなげるよう、日本人専門家、中国側カウンターパートが一体となって活動をしていきたいと思います。ご支援をお願いいたします。

#### プロジェクト所在地

北京市宣武区広安門南街 60 号 栄宁園 3 号楼 中国灌溉排水発展中心日本専家室

担当:土岐 典広